

国語 第1学年 をへをつかおう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を私の学級に合わせて直してください。初めに、学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や配慮、使える時間と本時の位置、ICTと紙の道具の条件を一項目ずつ質問し、答えを待ってから次の質問へ進んでください。条件がそろったら、助詞のをとへの表記という目標を保ち、をとへの短文カードで学びを確認できるように全体を直してください。教科書の本文や台詞、挿絵、固有の問題は転載しないでください。配当時は出典に従い、活動の配分を提案する場合は提案と明示してください。児童の姿を実測済みの事実として創作しないでください。三重の指導案の見出しの順と評価の三観点を保ち、内部IDなどを先生向けの文章へ出さないでください。変更箇所と根拠を示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「をへをつかおう」 教材名「をへをつかおう」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使う。思考・判断・表現では、行動や行き先を表す文を書き、をとへを使った箇所を読み直す。交流や試行の前後を比べ、をとへの短文カードを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)ウ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、行動や行き先を表す文を書き、をとへを使った箇所を読み直している。(B(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、助詞のをとへの表記を中心に学ぶ。行動や行き先を表す文を書き、をとへを使った箇所を読み直す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)ウとB(1)ウに関係する学習である。成果は、をとへの短文カードに示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

予想される難しさは、音だけを頼りにおとえを書くことである。動作の対象と行き先を絵で示して助詞を選ぶ。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時（本時）：○行動や行き先を表す文を書き、をとへを使った箇所を読み直す。○何をしたかどこへ行くかをどう書き分けるかを考え、最初の答えとその理由を残す。 評価：知①・思①（発言・学習記録）

第2次 第2時：○友達の説明と比べ、をとへの短文カードを見直す。○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。 評価：思①・態①（見直しの記録）

6 本時の指導（1/2）

(1) 本時の目標

行動や行き先を表す文を書き、をとへを使った箇所を読み直すことができる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。

○「何をしたかとどこへ行くかをどう書き分けるか」

【めあて】助詞のをとへの表記について、自分の考えと理由を表そう。

予想される児童の反応：・行き先を書くときはへを使った。

・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。

指導上の留意点：本時に使う具体例が見える所へ置く。音だけを頼りにおとえを書く姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。

【展開】

学習活動：2 行動や行き先を表す文を書き、をとへを使った箇所を読み直す。

3 書いたものを読み返し、「何をしたかとどこへ行くかをどう書き分けるか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認する。

4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。

予想される児童の反応：・行き先を書くときはへを使った。

・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。

指導上の留意点：動作の対象と行き先を絵で示して助詞を選ぶ。知識・技能では、本時に扱う仮名や助詞の表記を確認、語や文の中で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。

評価：①行動や行き先を表す文を書き、をとへを使った箇所を読み直している。(B(1)ウ)(初稿・見直した稿・修正理由)

【まとめ】

学習活動：5 をとへの短文カードを確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。

【まとめ】表記は音だけで決めず、文字の見本や文の中での働きを確かめて使う。

6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。

予想される児童の反応：・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。

指導上の留意点：結論が教師の例と同じかだけで判定しない。何をしたかとどこへ行くかをどう書き分けるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。

評価：知①(をとへの短文カードと実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、行動や行き先を表す文を書き、をとへを使った箇所を読み直している姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。音だけを頼りにおとえを書く場合は、動作の対象と行き先を絵で示して助詞を選ぶ。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画(縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には助詞のをとへの表記を確認める語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側にをとへの短文カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

